

2023年度第2四半期 決算説明会

日時：2023年11月13日（月） 午前10：30～11：30
場所：Tech Design X (THE HEXAGON 9階)
形式：オンライン説明会

株式会社TBSホールディングス

（出水アナ）

本日はお忙しい中、ご参加頂きまして
誠にありがとうございます。

只今より、
TBSホールディングスの
2023年度 第2四半期 決算説明会を
開催いたします。
本日の司会を務めます
TBSアナウンサー・出水麻衣です。
どうぞよろしくお願いいたします。

本日の説明会は、
TBSグループ初のイノベーションスペース
「Tech Design X（テック デザイン クロス）」
から配信いたします。

最先端の技術を使った演出を
実験できる場所となっており、
ここ赤坂から世界に向けて
ワクワクするエンタテインメントを発信してまいります。

出席者

代表取締役社長	佐々木 卓
代表取締役	河合 俊明
取締役	菅井 龍夫
取締役	渡辺 正一
取締役	菅木 雅哉
(株)スタイリングライフ・ホールディングス 代表取締役 執行役員社長	北村 博之

司会：出水 麻衣 (TBSアナウンサー)

2

(出水アナ)

それでは、本日の出席者です。

- TBSホールディングス代表取締役 社長
佐々木 卓 (ささき たかし) です。
- 代表取締役
河合 俊明 (かわい としあき) です。
- 取締役
菅井 龍夫 (すがい たつお) です。
- 取締役
渡辺 正一 (わたなべ しょういち) です。
- 取締役
菅木 雅哉 (ちさき まさや) です。
- 株式会社スタイリングライフ・ホールディングス
代表取締役 執行役員 社長
北村 博之 (きたむら ひろゆき) です。

以上、6名となります。

本日の資料とスケジュール

1 第2四半期の業績

代表取締役 河合 俊明

2 今後の重点施策

代表取締役社長 佐々木 卓

3 質疑応答



使用する資料はこちらです。

3

(出水アナ)

先週10日、金曜日に発表しました、「2023年度第2四半期」の決算資料を、ご参照ください。

まず、TBSグループの「第2四半期の業績」について河合より、

続いて、「今後の重点施策」について佐々木より、

ご説明いたします。

そのあと皆様からのご質問には、役員一同でご回答するお時間をとっております。この機会にぜひ、ご質問ください。

2023年度 第2四半期

決算資料

2023年11月10日

株式会社 TBS ホールディングス

(出水アナ)

それでは、代表取締役の河合より、
「TBSグループの業績」について
ご説明いたします。

(河合代表取締役)

河合です。
どうぞよろしくお願いいたします。

では資料4ページの
「連結決算のポイント」からご覧ください。

2023年度 第2四半期決算ハイライト**2023年度 業績見通し****株主還元****経営計画の進捗****今後の重点施策****参考資料**

本資料に記載されている将来の当社業績に関する見通しほか全ての内容は、本資料作成時点の当社の判断に基づくものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
将来の業績は、経済情勢、市場動向、経営環境などの変化により、記載事項と異なる可能性があることに十分ご留意下さい。
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

◇お問い合わせ先
〒107-8006

東京都港区赤坂5丁目3番6号 株式会社TBSホールディングス 社長室 広報・IR部
Tel : 03-3746-1111 (代表) HP : <https://www.tbsholdings.co.jp/ir/>

※原稿なし

2023年度 第2四半期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

経営計画の進捗

今後の重点施策

参考資料

※原稿なし

2023年度 第2四半期決算

- ▶ 連結全体では、増収、営業減益、経常減益。
親会社株主に帰属する四半期純利益は、投資有価証券売却益の前期との規模差で増益。
第2四半期累計では、過去最高売上高を更新。
- ▶ メディア・コンテンツ事業は、TBSテレビのスポット収入が減収となったものの、配信広告収入や有料配信収入が大幅に伸長。また、事業部門での映画の大ヒットや、TBSグロウディア・TCエンタテインメントのDVD販売が大幅に増加し、増収。
一方で、放送収入の減収に加え、番組制作費の増加により、減益。
- ▶ ライフスタイル事業は、やる気スイッチグループHDの新規連結を行い、売上高・利益ともに増加。スタイリングライフグループにおいては、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う社会・経済活動の正常化、および、猛暑に対応した商材が伸長し、増収増益。
ライフスタイル事業トータルでも増収増益。
- ▶ 不動産その他事業は、賃料収入の増加などにより増収増益。

2023年度 通期業績予想の修正とコーポレートアクション

- ▶ 売上高は、TBSテレビでのスポット市況低迷による放送収入の下振れを、やる気スイッチグループHDの新規連結などでカバーし、前回発表予想とほぼ同水準となる見込み。
- ▶ 営業利益、経常利益は、放送収入の減収などの影響で、下方修正。
- ▶ 親会社株主に帰属する当期純利益は、政策保有株式の売却による特別利益の計上で、上方修正。
- ▶ 配当予想は変更なし。
- ▶ 株主還元および資本効率の向上を図るため、自己株式を取得。

TBSグループ第2四半期の、
連結全体の売上高は増収となりました。

利益は、営業減益、経常減益となり、
親会社株主に帰属する四半期純利益は、増益となりました。

また、期首に発表した通期業績予想のうち、
売上高と親会社株主に帰属する当期純利益を上方修正し、
営業利益、経常利益を下方修正いたしました。

詳細は次の5ページからご説明いたします。

第2四半期 連結損益計算書

TBS

▶ 連結全体では、増収、営業減益、経常減益。親会社株主に帰属する四半期純利益は、投資有価証券売却益の前期との規模差で増益。

(単位：百万円)

連 結	2022年度 2Q (4-9月)	2023年度 2Q (4-9月)	前 年 差	増 減 率
売 上 高	178,863	190,813	+11,949	+6.7%
営 業 利 益	10,106	8,743	△1,363	△13.5%
経 常 利 益	17,034	16,257	△777	△4.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	9,191	9,832	+641	+7.0%



まず、連結の損益計算書です。

売上高は、
前年比プラス6.7%、金額にして約119億円の増収となり、
第2四半期累計としては、過去最高売上高となりました。

一方、
営業利益は、マイナス13.5%、金額にして約13億円の減益となりました。

連結セグメント別 実績

TBS

(単位:百万円)

	外部売上				営業利益			
	2022年度 2Q (4-9月)	2023年度 2Q (4-9月)	前年差	増減率	2022年度 2Q (4-9月)	2023年度 2Q (4-9月)	前年差	増減率
メディア・コンテンツ	138,201	141,370	+3,168	+2.3%	4,339	1,860	△2,479	△57.1%
ライフスタイル	32,506	41,109	+8,602	+26.5%	2,008	2,714	+705	+35.1%
不動産・その他	8,154	8,333	+178	+2.2%	3,750	4,165	+414	+11.1%
調整額	—	—	—	—	8	3	△4	—
連結	178,863	190,813	+11,949	+6.7%	10,106	8,743	△1,363	△13.5%

増減要因	外部売上	営業利益
メディア・コンテンツ	TBSグロウディア (+1,621) TCエンタテインメント (+897) CS-TBS (+704) TBSテレビ (+210) TBSラジオ (△270)	TBSグロウディア (+815) TBS HD (+500) TCエンタテインメント (+273) TBSラジオ (△231) TBSテレビ (△3,348)
ライフスタイル	やる気スイッチグループ (+6,093) スタイリングライフグループ (+2,509)	スタイリングライフグループ (+260) やる気スイッチグループ (+203)
不動産・その他	TBSテレビ (+320) 緑山スタジオ・シティ (△400) TBS HD (+282)	TBS HD (+509)

6

続いて、連結セグメント別の実績です。

売上高は、すべてのセグメントで増収でした。

営業利益は
「メディア・コンテンツ」が減益、
「ライフスタイル」は増益、
「不動産・その他」は増益でした。

増減要因を
次の7ページのグラフでご説明します。

連結セグメント別 売上高（外部売上）の増減要因

TBS

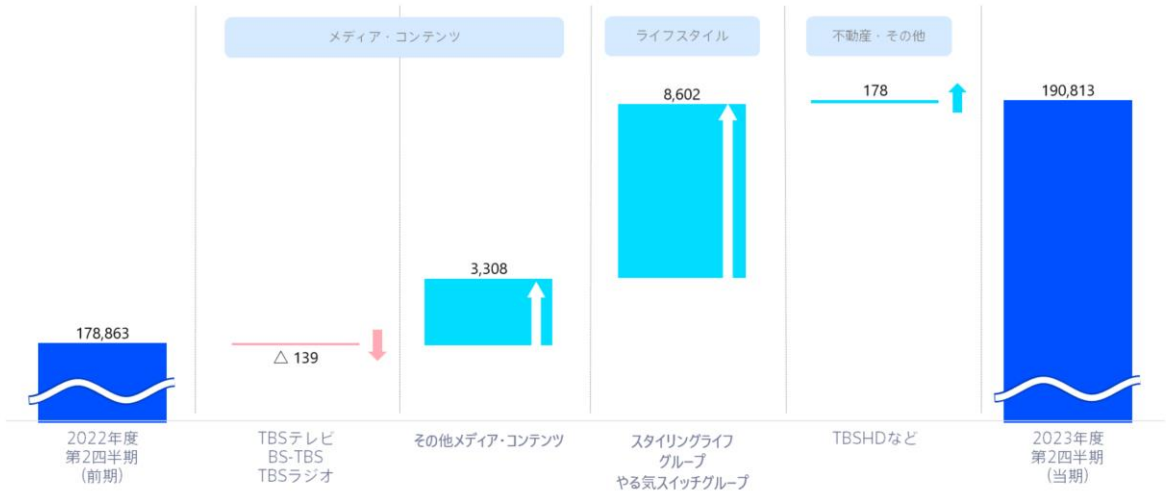
メディア・コンテンツ事業は、TBSテレビのスポット収入が減収となったものの、配信広告収入や有料配信収入が大幅に伸長。

また、TBSグロウディア・TCエンタテインメントのDVD販売が大幅に増加し、増収。

ライフスタイル事業は、やる気スイッチグループの新規連結による増収に加え、スタイリングライフグループは社会・経済活動の正常化で好調に推移し、増収。不動産その他事業も、賃料収入の増加などにより増収。連結全体でも増収。

■ 売上実績 ■ 増加分 ■ 減少分

(単位：百万円)



7

はじめに売上高の増減要因です。

「メディア・コンテンツ」では、
まず、左から2つ目のグラフで示した放送関連の会社において、
放送収入の減少を、配信広告収入や有料配信収入がカバーしたものの、
わずかに減収となりました。

その右の、「その他メディア・コンテンツ」は、
主に、TBSグロウディア、TCエンタテインメントの
DVD販売が好調で、増収でした。

「ライフスタイル」では、
やる気スイッチグループの
新規連結による増加に加え、
スタイリングライフグループの
雑貨小売販売事業が大変好調で、
約86億円と、大幅な増収となりました。

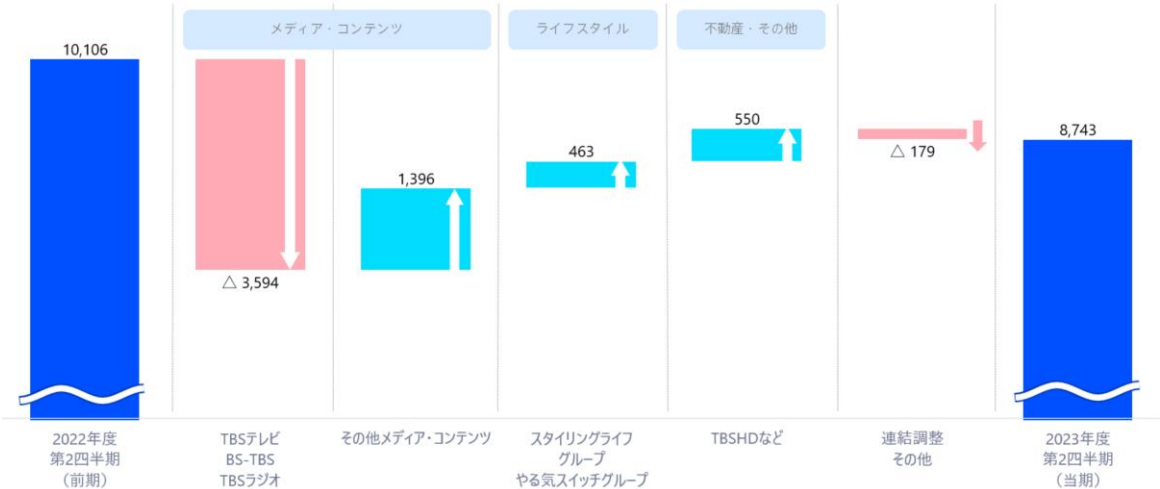
連結セグメント別 営業利益の増減要因

TBS

▶ メディア・コンテンツ事業は、放送収入が減少する中、番組制作費が増加し、減益。ライフスタイル事業は、やる気スイッチグループの新規連結に伴う増益に加え、スタイリングライフグループが社会・経済活動の正常化で好調に推移し、増益。不動産その他事業は、賃料増加などで増益。連結全体では減益。

■ 営業利益 ■ 増加分 ■ 減少分

(単位：百万円)



8

続いて、営業利益の増減要因です。

「メディア・コンテンツ」は減益となりました。
TBSテレビのスポット収入が大幅に減少する中、
番組制作費が増加したことが主な要因です。

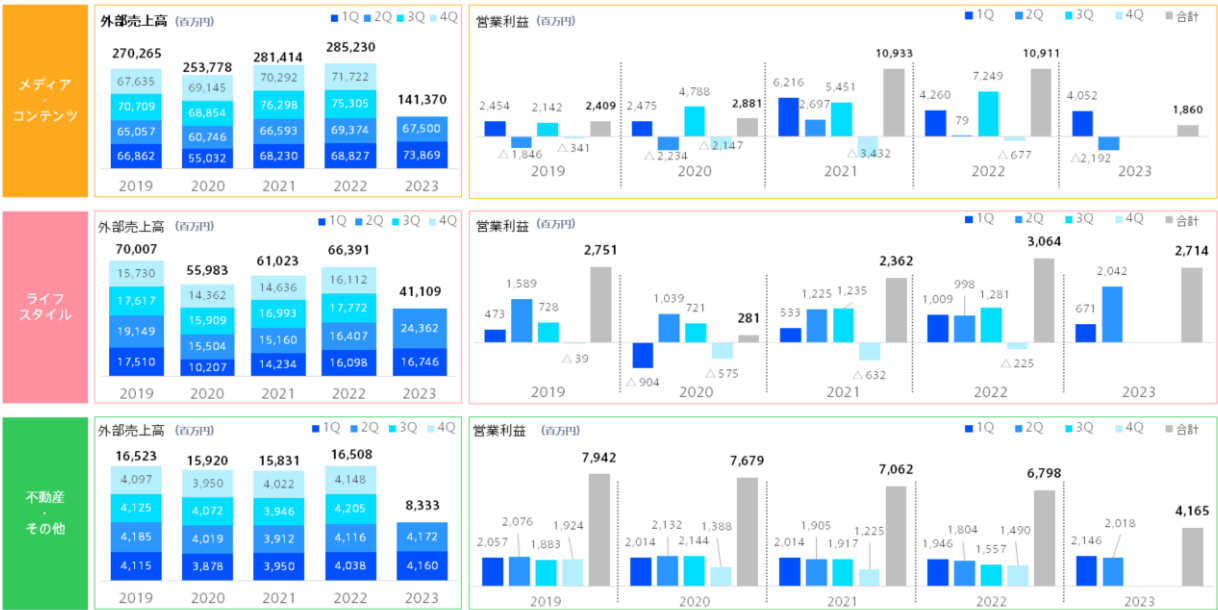
「ライフスタイル」は、
やる気スイッチグループの
新規連結に伴う増加に加え、
スタイリングライフグループも好調で増益となりました。

「不動産・その他」は、
賃料収入の増加などで、増益となりました。

次の9ページと10ページは後程ご覧いただきまして、
11ページの
「TBSテレビの業績」にお進みください。

連結セグメント別 経年推移

TBS



※原稿なし

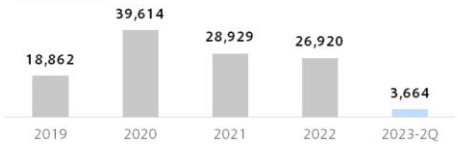
設備投資と減価償却費

TBS

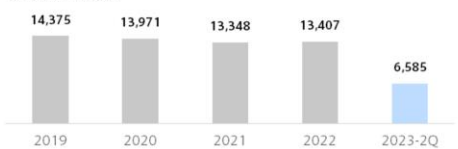
単位：百万円

連 結	2023年度 2Q(4-9月)	前年差
設 備 投 資	3,664	△13,256
減 価 償 却 費	6,585	△81

連結設備投資



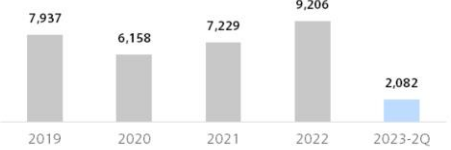
連結減価償却費



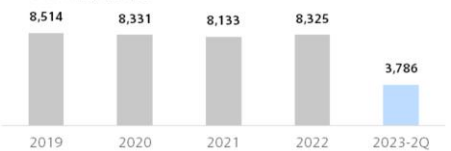
単位：百万円

TBSテレビ	2023年度 2Q(4-9月)	前年差
設 備 投 資	2,082	△4,087
減 価 償 却 費	3,786	△308

TBSテレビ設備投資



TBSテレビ減価償却費



※原稿なし

TBSテレビ 損益計算書

TBS

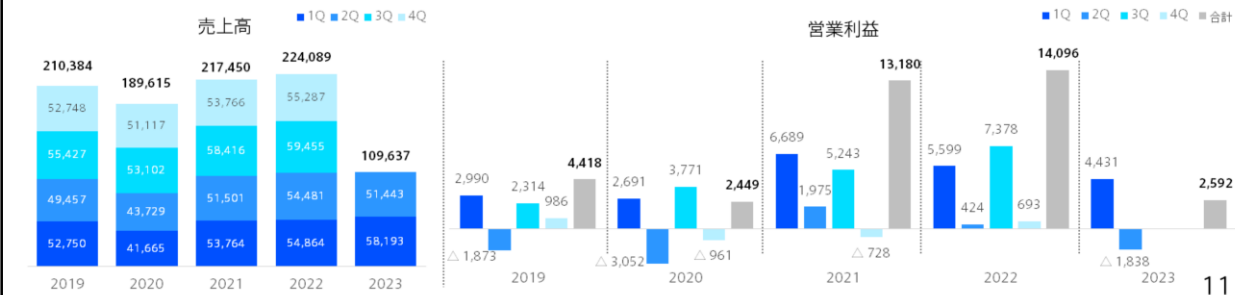
テレビ部門では、スポット収入が大幅な減収となったものの、タイムの増収と、配信広告収入や有料配信収入が大幅に伸長したことに加え、メディア事業（CS事業）の移管により、増収。事業部門では、舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」の公演日数の増加、劇場版「TOKYO MER～走る緊急救命室～」の大ヒット、放送関連のグッズやDVD販売の好調があったものの、メディア事業（CS事業）のテレビ部門への移管で減収。トータルで増収。営業利益は、番組制作費の増加などにより減益。経常利益以下も減益。

(単位: 百万円)

TBSテレビ	2022年度 2Q (4-9月)	2023年度 2Q (4-9月)	前年差	増減率
売上高	109,346	109,637	+291	+0.3%
営業利益	6,024	2,592	△3,431	△57.0%
経常利益	7,423	4,041	△3,382	△45.6%
四半期純利益	5,219	3,437	△1,782	△34.1%

営業費用など

■ 番組原価	+2,431
■ 代理店手数料	△767 (当期14,150)
■ ネットワーク費	+313
■ 事業部門営業費用	△3,007
■ 特別利益 (投資有価証券売却益)	4,478
■ 特別損失 (退職給付費用, 固定資産撤去費用, 投資有価証券評価損)	3,333



TBSテレビの業績です。

当期は増収減益でした。

売上高は、プラス0.3%と増収を確保し、

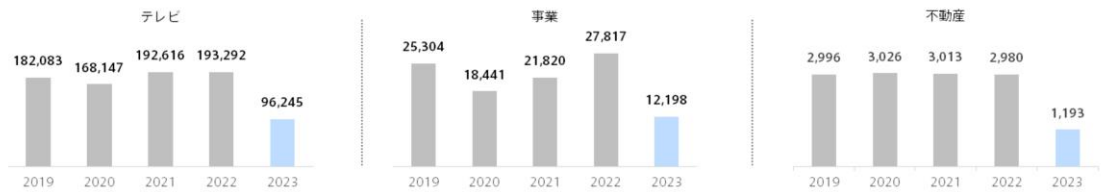
営業利益は、マイナス57%、金額にして約34億円の減益となりました。

TBSテレビ 収入内訳

TBS

	2023年度 2Q (4-9月)	前年差	単位：百万円
テレビ	96,245	+3,089	
－ タイム	40,559	+449	
－ スポット	36,206	△3,559	
－ 配信広告	3,299	+911	
－ 有料配信	6,617	+3,193	
－ その他	9,562	+2,094	
事業	12,198	△2,480	
不動産	1,193	△318	
収入合計	109,637	+291	

注1 前第2四半期においてその他区分で開示していた収入のうち、当第2四半期においては有料配信を別掲したうえで、有料配信以外をその他区分で集計しております。
 なお、前第2四半期について当該変更による組替を行ったうえで前年差を算出しております。
 注2 前第2四半期において事業部門に含めていたメディア事業（CS事業）にかかる収入の一部について、当第2四半期よりテレビ部門のその他区分で集計しております。
 なお、前第2四半期について当該変更による組替は行わずに前年差を算出しております。



12

12ページは、事業別の収入内訳です。

テレビは約30億円の増収、

事業は約24億円の減収、

不動産は約3億円の減収でした。

増減の要因は、次のページでご説明します。

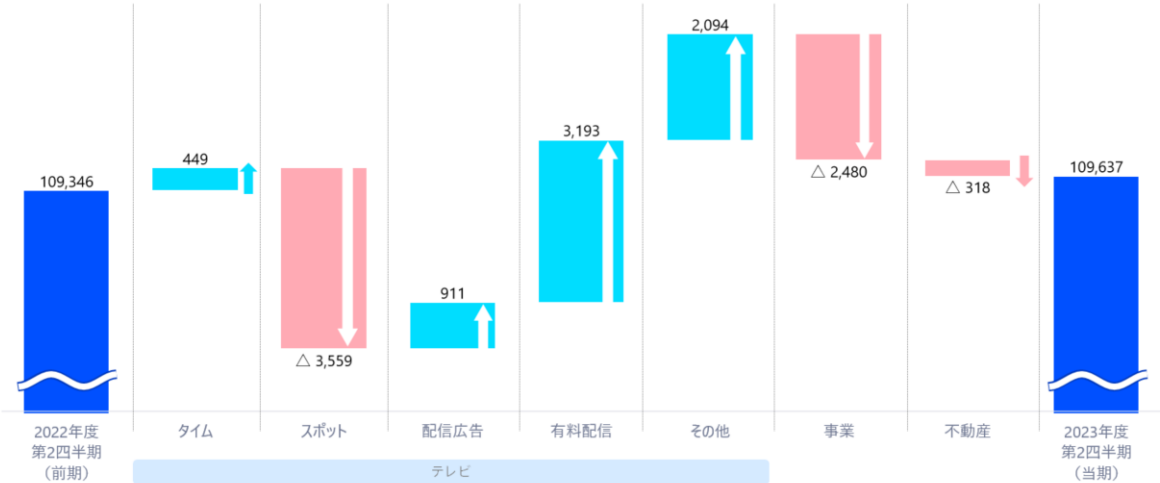
TBSテレビ 売上高の増減要因

TBS

テレビ部門では、スポット収入が大幅な減収となったものの、タイムの増収と、配信広告収入や有料配信収入が大幅に伸長したことに加え、メディア事業（CS事業）の移管により、増収。事業部門では、舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』のロングラン上演、劇場版『TOKYO MER～走る緊急救命室～』の大ヒット、放送関連のグッズやDVD販売の好調があったものの、メディア事業（CS事業）のテレビ部門への移管で減収。トータルで増収。

■ 売上実績 ■ 増加分 ■ 減少分

(単位：百万円)



13

まず、「テレビ」についてです。

「タイム」は、レギュラーセールスの好調に加えて、「アジア大会」などの大型スポーツ単発の影響で、増収となりました。

「スポット」は、第1四半期に引き続き、第2四半期も広告市況が振るわず、スポーツ単発によるCM量の減少もある中で、在京5局シェア20.6%と健闘したものの、累計で35億円の減収となりました。

これら放送収入の減収分を補ったのが、配信事業です。配信事業の詳細は15ページで後程ご説明いたします。

「事業」につきましては、前年差がマイナスになっておりますのは、前年の「パリ・サン＝ジェルマン ジャパンツアー」の反動減と、7月から、メディア事業（CS事業）をテレビ事業に移管したことが主な要因です。

テレビ番組原価（制作費）

TBS

ドラマ・バラエティなどのコンテンツ強化および、アジア大会をはじめとした大型スポーツ単発などにより増加。
通期も期首予想（※）より増加。

（※）期首予想 97,400百万円

（単位：百万円）

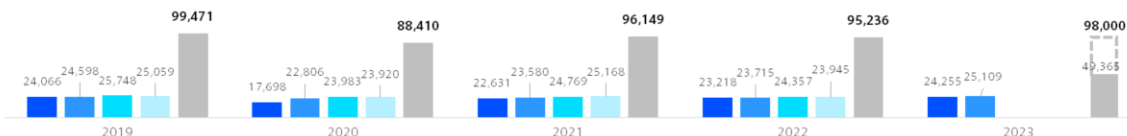
	2022年度実績	2023年度実績	前年差
第1四半期	23,218	24,255	+1,036
第2四半期	23,715	25,109	+1,394
（地上波直接費）	18,658	20,057	+1,398
（その他直接費及び間接費）	5,056	5,051	△4
上期	46,933	49,365	+2,431
第3四半期	24,357	—	—
第4四半期	23,945	—	—
通期累計	95,236	98,000	+2,763
（地上波直接費）	74,510	77,480	+2,969
（その他直接費及び間接費）	20,726	20,520	△206

テレビ番組原価に含まれる主な費用

地上波直接費：
番組制作費、放送権利、美術制作費、技術制作費
その他直接費および間接費：
地上波以外の直接費、
減価償却費・社員人件費などの配賦原価

※点線内の通期累計および内訳は、
すべて見込みです。

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q ■ 合計



14

続いて、テレビ番組原価です。

ドラマ・バラエティなどのコンテンツ強化に加え、
アジア大会など大型スポーツ単発などの影響で、
制作費は、前年に比べ、約24億円増加しました。

当社は現在、
コンテンツLTV（ライフ・タイム・バリュー）の最大化を目指し、
「VIVANT」に代表されるように、
オリジナルコンテンツの制作へ注力しております。

継続的なヒットコンテンツを作り出すべく、
下期においてもメリハリを付けながら
一定の制作費を投下してまいります。

通期累計で見ますと、
期首の想定より6億円増加し、
980億円となる見込みです。

配信事業の状況

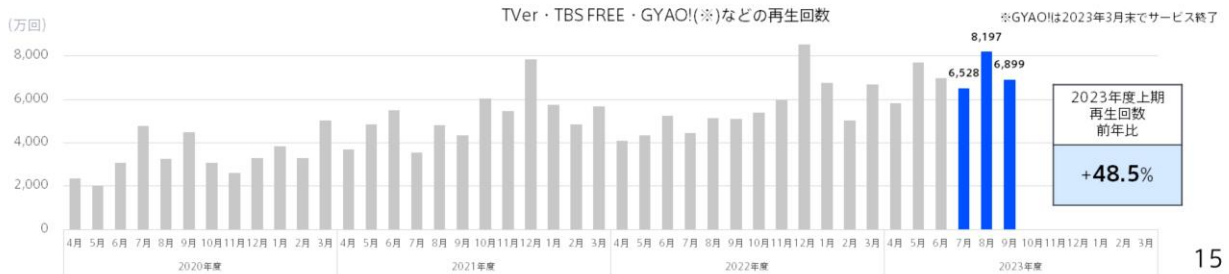
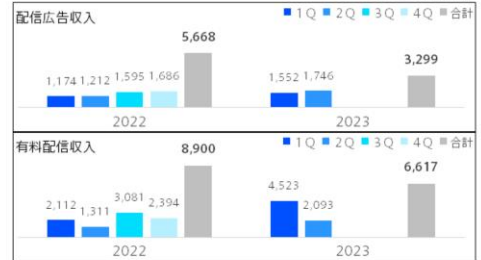
TBS

▶ 配信広告収入は、ドラマやバラエティの好調な配信回数を背景に増収。

有料配信収入は、海外配信（Amazon Original「風雲！たけし城」やNetflixシリーズ「離婚しようよ」など）に加え、U-NEXTでの国内有料配信が好調で増収。

（単位：百万円）

	2022年度 2Q（4-9月）	2023年度 2Q（4-9月）	前年差	増減率
配信広告収入	2,387	3,299	+911	+38.2%
有料配信収入	3,424	6,617	+3,193	+93.2%



配信事業の状況です。

配信広告収入は、前年比プラス38.2%、

有料配信収入は、前年比プラス93.2%の、大幅な成長となり、
金額では合わせておよそ100億円となりました。

TVerを中心とした「配信広告収入」は、

TBSの連続ドラマ史上初の5,000万回再生を記録した「VIVANT」を中心に、
予約型セールスが好調で、
期首の想定を上回る伸長となっております。

続いて「有料配信収入」ですが、

「海外配信」では、第1四半期に、

「風雲！たけし城」や「離婚しようよ」といった、

海外OTT向け作品のリリースで大きな売上を計上しました。

そして、第2四半期からは、

「国内有料配信」で、ParaviがU-NEXTと統合し、

「VIVANT」は勿論のこと、「半沢直樹」などの過去の大ヒット作品も

多くのU-NEXT会員の方々にご視聴いただき、

こちらも想定を上回る水準で推移しております。

(単位：百万円)

部 門	売上高		粗利益		主な増減要因
	2023年度 2Q (4-9月)	前年差	2023年度 2Q (4-9月)	前年差	
アニメ	530	△599	303	△189	前年好調であった映画「五等分の花嫁」、 「プラチナエンド」の反動で、減収減益。
映画	2,013	+905	943	+417	劇場版『TOKYO MER～走る緊急救命室～』の大ヒットにより、 増収増益。
ライブエンタテインメント (旧：催事・興行)	4,981	△805	815	+500	前年の「パリ・サン＝ジェルマン ジャパンツアー2022」の反動で 減収したものの、舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』の公演日数 の増加で、増益。7月より展覧会事業をTBSグロウディアに移管。
コンテンツビジネス (旧：マーチャンダイジングセンター)	1,072	+232	789	+272	DVD「クロサギ」「君の花になる」の大ヒットに加え、 番組商品化も好調で、増収増益。 なお、7月より一部をTBSグロウディアに移管。
グローバルビジネス	1,193	△392	645	△263	Amazon Original「風雲！たけし城」の世界配信に伴い、 たけし城のフォーマット販売が好調だったものの、 その他のロイヤリティ収入が振るわず、減収減益。
メディア事業・eスポーツ	2,406	△1,820	602	△346	4～6月分。7月以降はテレビ部門に移管。
その他営業費用			△956	+135	
部門計	12,198	△2,480	3,143	+526	事業部門全体では、減収増益。

次は、TBSテレビの事業部門の収益です。

当期から部門ごとの粗利益を開示しております。

アニメは、前年の反動減で減収減益。

映画は、劇場版「TOKYO MER」の大ヒットで増収増益。

「ライブエンタテインメント」は、
これまで「事業」と表記していた、いわゆる「催事・興行」です。
前年の「パリ・サン＝ジェルマン ジャパンツアー」の反動減で減収。
一方、舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」の公演数増加で増益。
7月より展覧会事業をTBSグロウディアに移管しました。

「コンテンツビジネス」は、
これまで「マーチャンダイジングセンター」と表記していた部分です。
DVD販売が好調で増収増益。
7月より、テレビショッピングの一部をTBSグロウディアに移管しました。

また、「メディア事業」はいわゆる「CS事業」ですが、
こちらを7月よりテレビ事業に移管いたしました。

このような移管などの変化もある中で、部門全体では減収増益となりました。

主なグループ会社の状況

TBS

(単位：百万円)

	売上高			営業利益			主な増減要因
	2022年度 2Q(4-9月)	2023年度 2Q(4-9月)	前年差	2022年度 2Q(4-9月)	2023年度 2Q(4-9月)	前年差	
TBSラジオ	4,179	3,982	△197	199	△32	△231	イベント収入は好調ながら、 タイム・スポットともに減少し、 減収減益。
BS-TBS	8,501	8,471	△30	1,474	1,460	△14	放送収入では、タイム・スポット収入 およびショッピングが好調だったものの、 事業収入の減少により、減収減益。
TBS グロウディア	12,451	15,032	+2,580	△265	550	+815	DVD収入の増加に加え、展覧会事業とTV ショッピングなどの一部がTBSテレビか ら移管されたこともあり、増収増益。
日音	4,015	4,425	+409	289	383	+93	業務代行収入や邦楽・洋楽収入の増加 などにより、増収増益。
TCエンタ テインメント	3,774	5,007	+1,233	326	600	+273	DVD販売の増加により、増収増益。

続いて、主なグループ会社の状況です。

TBSラジオは、タイム・スポット収入の減少により減収減益。

BS-TBSは、事業収入の減少で、わずかに減収減益。

TBSグロウディアは、主にDVD収入の増加で、大幅な増収増益。

日音は、業務代行収入などで増収増益。

TCエンタテインメントは、DVD販売の増加で、増収増益となりました。

▶ 雑貨小売販売事業は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う社会・経済活動の正常化、および、猛暑に対応した商材が伸長したことで、増収。通信販売事業は、受注の減少により減収。ビューティ&ウェルネス事業は、化粧品品の国内・海外販売が好調で増収。グループ全体では、増収増益。

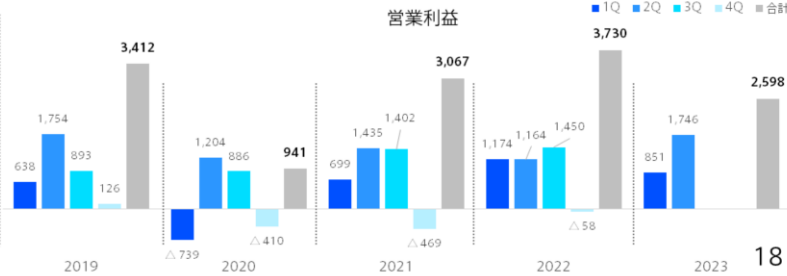
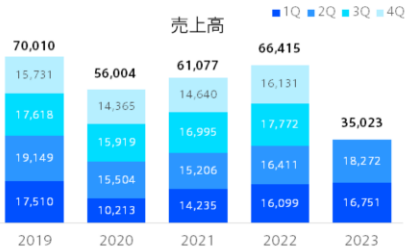
(単位：百万円)

(単位：百万円)

連結	2022年度 2Q (4-9月)	2023年度 2Q (4-9月)	前年差
売上高	32,511	35,023	+2,512
営業利益	2,338	2,598	+260

事業別	売上高(※)		
	2022年度 2Q (4-9月)	2023年度 2Q (4-9月)	前年差
雑貨小売販売事業	17,469	19,607	+2,137
通信販売事業	7,804	7,523	△281
ビューティ&ウェルネス事業	7,404	8,073	+668
本社およびその他	△167	△179	△11
計	32,511	35,023	+2,512

※事業別の売上高は管理会計上の数値



続いて、スタイリングライフグループの業績です。

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、社会・経済活動が正常化する中、中核の「雑貨小売販売事業」において、「Plaza」の店舗売上が大変好調に推移し、大幅な増収となりました。

営業利益は、コロナ前の水準を上回り、第2四半期累計としては、過去最高益を更新しました。

やる気スイッチグループ

※やる気スイッチグループは 国際会計基準（以下、IFRS）を適用しており、連結上ではIFRSを日本基準に組み替えた上で、6～8月の3か月分を取り込んでおります

TBS

個別指導塾事業及び幼児教育事業は、教室数及び生徒数増加に伴い、両事業共に増収。
グループ全体では、事業の順調な成長による増収の一方、TBSグループ入りに伴うトランザクション関連費用(※1)が856百万円発生した事により、減益。
なお、トランザクション関連費用(※1)を除外した営業利益は1,142百万円。

(単位：百万円)

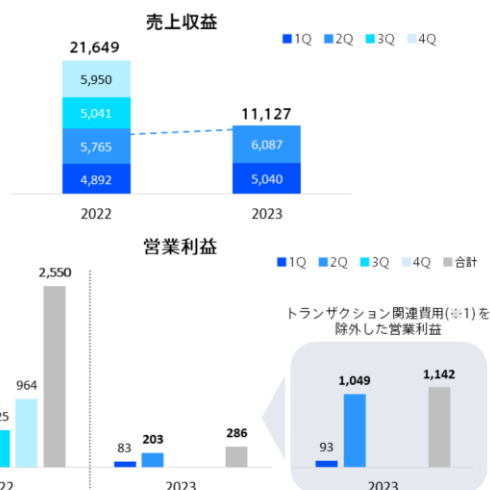
連結	2022年度 2Q (3-8月)	2023年度 2Q (3-8月)	前年差
売上収益	10,658	11,127	+469
営業利益	1,061	286	△774

(単位：百万円)

事業別	売上収益 (※2)		
	2022年度 2Q (3-8月)	2023年度 2Q (3-8月)	前年差
個別指導塾事業	5,214	5,296	+82
幼児教育事業	5,443	5,831	+387
計	10,658	11,127	+469

(※2) 事業別の売上収益は管理会計上の数値

(※1) やる気スイッチグループがTBSグループ入りに伴い発生した費用(IFRS)を指し、連結上では日本基準に組み替えて一部を特別損失に計上しております



続いて、新規連結となりました
やる気スイッチグループの業績です。

やる気スイッチグループは、
国際会計基準（IFRS：イファース）を適用しており、
連結上ではIFRSを日本基準に組み替えた上で、
6月から8月の3か月分を取り込んでおります。

このページでは、2022年度からの業績推移や事業別の売上収益を
記載しており、全ての数字がIFRSベースとなります。

さて、
第2四半期累計である3月から8月の、
グループ全体の業績を見ますと、
個別指導塾事業、幼児教育事業ともに、教室数と生徒数が増加し、増収。

一方、TBSグループ入りに伴うトランザクション関連費用が、
8億5千6百万円発生した事により、減益となりました。

ただし、トランザクション関連費用を除外した営業利益で見ますと、
11億4千2百万円と、前年を8千万円ほど上回っており、
事業成長に伴う利益は確実に向上しております。

2023年度 第2四半期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

経営計画の進捗

今後の重点施策

参考資料

続いて、業績見通しです。

2023年度 連結業績予想の修正

TBS

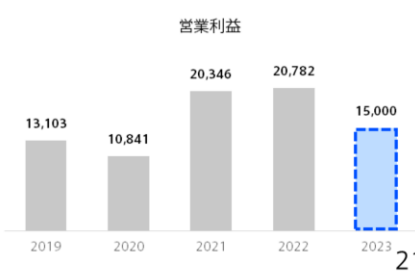
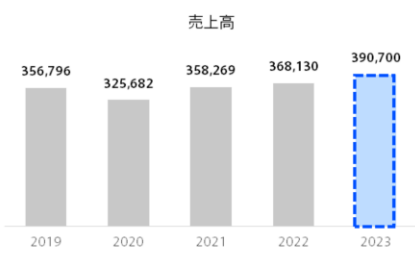
売上高は、TBSテレビでのスポット市況低迷による放送収入の下振れを、やる気スイッチグループHDの新規連結などでカバーし、前回発表予想とほぼ同水準となる見込み。
営業利益、経常利益は、放送収入の減収などの影響で、下方修正。
親会社株主に帰属する当期純利益は、政策保有株式の売却による特別利益の計上で、上方修正。

(単位: 百万円)

連 結	前年実績 (2022年度)	前回予想 (5/12発表)	修正予想	前回予想 からの増減
売 上 高	368,130	390,000	390,700	+700
営 業 利 益	20,782	26,000	15,000	△11,000
経 常 利 益	35,086	39,000	26,800	△12,200
親会社株主に帰属する 当期純利益	35,182	24,500	36,200	+11,700

(単位: 百万円)

セグメント別予想	売上高			営業利益		
	前年実績 (2022年度)	修正予想	増減	前年実績 (2022年度)	修正予想	増減
メディア・コンテンツ	285,230	284,900	△330	10,911	3,900	△7,011
ライフスタイル	66,391	89,200	+22,808	3,064	4,600	+1,535
不動産・その他	16,508	16,600	+91	6,798	6,500	△298
調整額	—	—	—	8	—	△8
連 結	368,130	390,700	+22,569	20,782	15,000	△5,782



21ページは連結の業績予想の修正です。
スポット市況低迷による放送収入の下振れが見込まれることから、
業績予想を修正いたします。

売上高は、やる気スイッチグループの新規連結などでカバーし、
前回発表予想とほぼ同水準となる見込みです。

営業利益は、150億円に下方修正し、
期首予想差で110億円の減益予想となりました。
理由は主に、TBSテレビ社の業績不振によるものです。

前年実績差では、約57億円の減益となり、
上期下期で比較しますと、
上期がマイナス13億円の減益でしたので、
下期でマイナス44億円の減益予想となります。
下期に減益幅が広がる理由としましては、
TBSテレビ社の要因に加えて、
次期中計に向けたさらなる種まき費用の計上などが要因です。

経常利益は、同様に下方修正。

親会社株主に帰属する当期純利益は、
政策保有株式の売却による特別利益の計上で、上方修正いたしました。

セグメント別では、
前年実績差を記載しております。

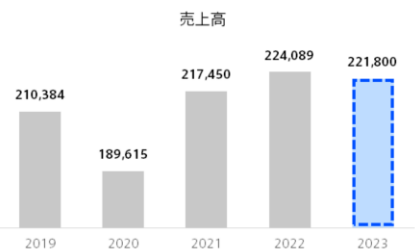
2023年度 TBSテレビ業績予想の修正

TBS

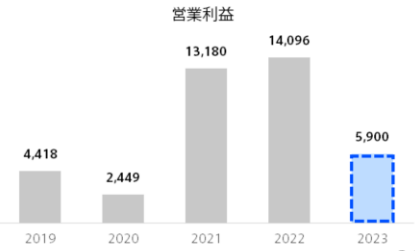
▶ スポット収入の下振れが下期も継続すると予想されるため、通期の業績予想（売上高、営業利益、経常利益、当期純利益）を下方修正。

(単位: 百万円)

TBS テレビ	前年実績 (2022年度)	前回予想 (5/12発表)	修正予想	前回予想 からの増減
売上高	224,089	236,600	221,800	△14,800
営業利益	14,096	14,700	5,900	△8,800
経常利益	16,818	17,100	8,600	△8,500
当期純利益	10,722	11,100	6,400	△4,700



	2023年度2Q 累計実績	通期予想 (前回予想との比較)
タイム	+1.1%	+1.9% → +1.7%
スポット	△9.0%	+3.7% → △5.7%
番組原価 (百万円)	49,365	97,400 → 98,000



次にTBSテレビの業績予想です。
 期初予想に比べて、
 売上高で148億円の減収、営業利益で88億円の減益と、
 大きな下方修正となりました。

理由としましては、
 まず、地上波広告市況が低迷し、
 スポット収入が期首の想定から大幅に落ち込んでいることが要因です。
 「交通・レジャー」や「化粧品・トイレタリー」などを中心に
 下期の市況を回復基調と見ておりましたが、想定より回復が遅く、
 通期のスポット収入は、5.7%の減収へと見込みを下げました。

次に、事業部門で、
 前年に好評であった映画やイベントなどの収益をベースに
 今期予想を立てておりましたが、匹敵する案件を見込めませんでした。

また、そのような環境下ではありますが、
 当社は、コンテンツの強化を続けており、

「新ファミリーコア視聴率」では5局中唯一、
 視聴率を下げずに維持できており、
 TVerなど配信事業も好調ですので、

下期におきましても、継続的に制作費を投下していく、
 という背景がございます。

2023年度 第2四半期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

経営計画の進捗

今後の重点施策

参考資料

次に株主還元です。

配当方針と年間配当予想

TBS

基本方針

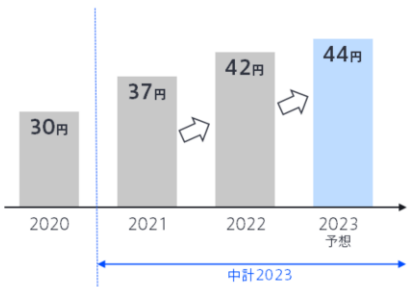
株主の皆様への利益還元を重要な経営課題と位置づけ、連結ベースの配当性向30%を目標としつつ、安定的かつ継続的な配当を基本とする。業績伸長などの際には、特別配当などにより還元の充実に努める。自己株式取得は、これまで通り機動的に検討する。

中計2023 配当方針

1株当たり30円を下限とする。
ただし、2期連続で当期利益を生まなかった場合は、下限配当金を見直すことがある。

	1株当たり配当金（円）			配当性向（％）	特殊な要因（★） の影響を除いた 配当性向（％）
	第2四半期末	期末	年間		
2017年度	15	15	30	30.5	30.5
2018年度	16	17	33	22.9	31.7
2019年度	13	17	30	17.3	43.0
2020年度	15	15	30	18.3	59.5
2021年度	15	22	37	19.7	30.9
2022年度	20	22	42	20.1	30.3
2023年度 （予想）	22	22	44	19.9	37.8

（★）中長期の収益拡大を目指す成長領域への投資の源泉として売却した投資有価証券から生じる売却損益は、配当額を決定する上では「特殊な要因」と位置付けております。



2023年度は2円増配の44円を予想。引き続き、安定的かつ継続的な配当を実施。

まず、配当についてです。

当期の一株当たりの年間配当金は
前期から2円増配の44円を予想しており、
期首の発表から修正はございません。

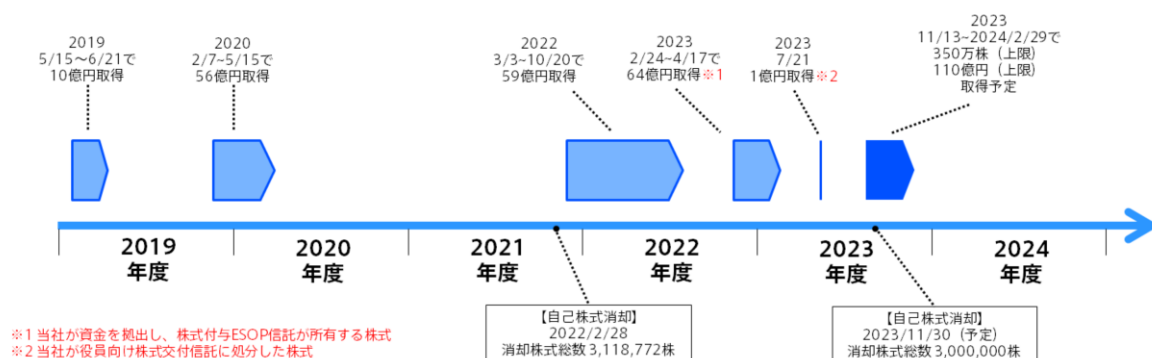
引き続き、安定的かつ継続的な配当を
基本としてまいります。

自己株式取得および消却

TBS

▶ 株主還元および資本効率の向上を図るため、自己株式を取得。

取得対象株式	普通株式
取得株式の総数	3,500,000株（上限） ※発行済株式総数の2.08%
取得価額の総額	11,000,000,000円（上限）
取得期間	2023年11月13日～2024年2月29日



25

続いて、「自己株式取得および消却」です。

11月10日に発表しましたように、株主還元及び資本効率の向上を目的として、350万株、110億円を上限とした自己株式の取得を行います。350万株は発行済株式総数の2.08%に相当します。

また、11月30日に300万株の自己株式を消却いたします。

当社は、ここ5年の間で、自己株式の取得や消却を、ごらんのように行っており、外資規制の中ではありますが、引き続き、機動的な取得を行って、株主価値の向上に努めてまいります。

2023年度 第2四半期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

経営計画の進捗

今後の重点施策

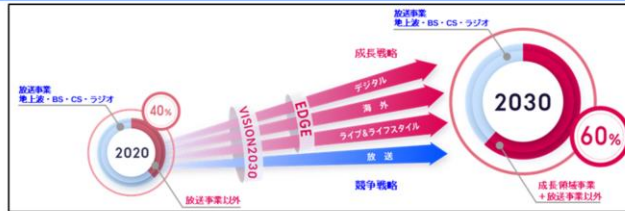
参考資料

続いて、経営計画の進捗です。

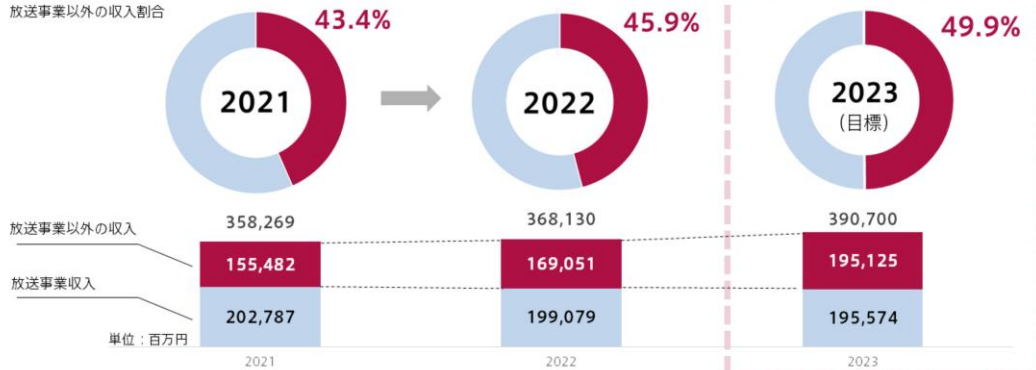
放送事業と放送事業以外の収入割合

TBS

TBSグループ VISION2030



放送事業以外の収入割合



27

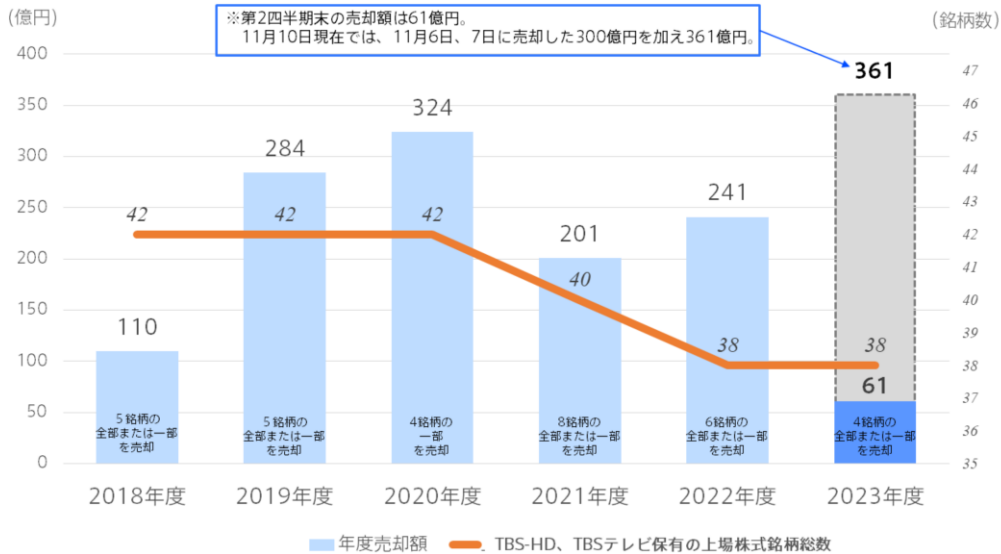
「放送事業と放送事業以外の収入割合」の推移です。

「VISION2030」では
放送事業の価値向上に努めながら、
EDGE戦略の推進によって
放送事業以外の売上高比率を拡大させ、
2030年には
グループ全体の収入の60%にまで高めることを目指しています。

修正した業績予想に基づきますと、
23年度は、放送事業以外の割合が49.9%にまで
高まってまいります。

政策保有株式売却の推移

TBS



28

「政策保有株式売却の推移」です。

当第2四半期末時点では、61億円の売却額ですが、11月6日、7日に300億円の売却を行いましたので、本日現在では、361億円の売却額となります。

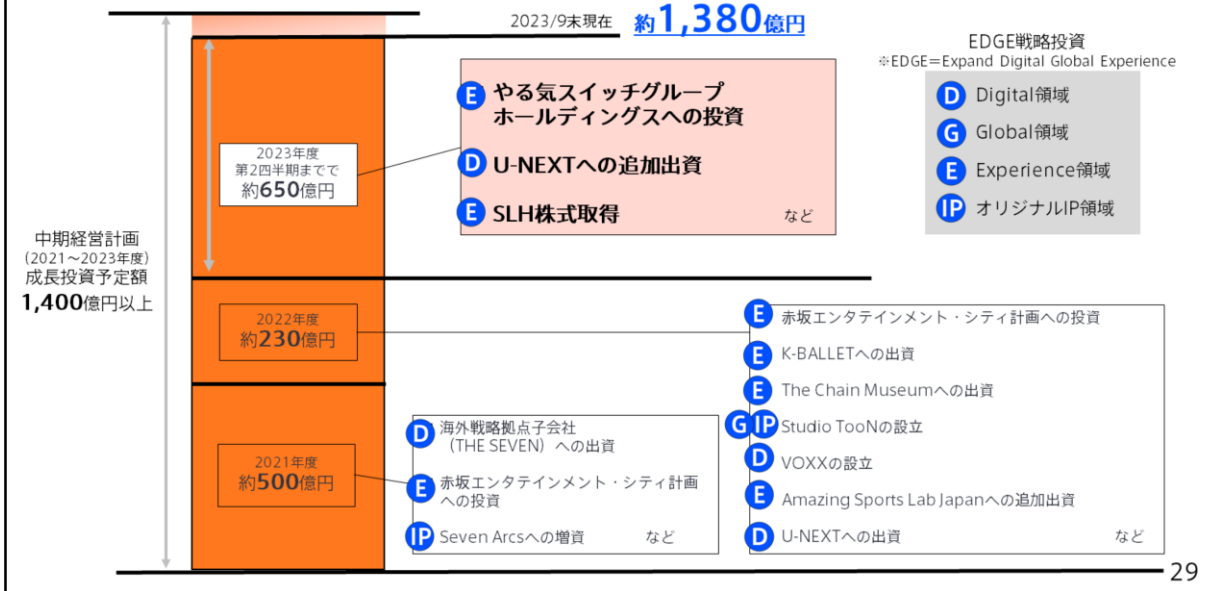
「中計2023」では、成長投資の原資として、600億円以上の資産売却を行う方針を掲げる中、既に800億円を超える額となっており、方針を上回るペースで売却が進んでおります。

棒グラフは直近6年間の政策保有株式の売却実績です。合計で1,500億円を超える売却を実行しております。

従来の方針通り、政策保有株式に関しましては、成長戦略の原資として売却するとともに、保有の意義が希薄化したと判断した株式について、売却して参ります。

成長投資の進捗

TBS



29

「成長投資の進捗」です。

当第2四半期までの成長投資額は、
ごらんなのような内容で、約650億円となりました。

「中計2023」では、
政策保有株式の売却益などを原資として
3年間で総額1,400億円以上の成長投資を行う方針を
掲げております。

これまでの累計では、およそ1,380億円となり、
概ね目標額と言える水準となりましたが、
これからも、
積極的に投資を続けて参ります。

私からのご説明は以上です。

2023年度 第2四半期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

経営計画の進捗

今後の重点施策

参考資料

30

(出水アナ)

続きまして、社長の佐々木より、
「今後の重点施策」について
ご説明いたします。

(佐々木社長)

佐々木です。どうぞよろしくお願いいたします。

2023年度も半分が過ぎ、
「TBSグループ VISION2030」の
第1フェーズと位置付けた、
「中計2023」も大詰めを迎えております。

現在、取締役会では毎月のように、
次のフェーズとなる「中計2026」の議論を
進めております。

発表の期日ははっきりと申し上げられませんが、
しっかりと現中計を振り返り、
外部環境の変化やステークホルダーの声に耳を傾けながら、
次のフェーズについてご説明する準備を
進めております。

それでは、31ページをご覧ください。



□ Netflixシリーズ
「今際の国のアリス」シーズン3制作決定！

シーズン1は世界70以上、シーズン2は世界90以上の国と地域で
人気TOP10入りを果たしたこのドラマシリーズの、シーズン3をプロデュース

□ Netflixからの配信で、さらに **3** 作品が制作決定！

2024～25年にかけて制作、順次配信へ

□ VFXの受注も順調に伸び、収益の柱へ

T H E S E V E N 2025年度は **売上高100億円** に！

THE SEVENの今後の見通しです。

すでに発表済みですが『今際の国のアリス シーズン3』が
制作決定いたしました。

シーズン1は世界70以上、
シーズン2は世界90以上の国と地域で人気TOP10入りを果たした
このドラマシリーズの新作が、
THE SEVENのプロデュースにより、Netflixで世界に配信されます。

この他に3作品がNetflixより制作開始が決定しており、
2024年～25年にかけて制作をし、順次配信してまいります。
また、VFXの受注も順調に伸びており、
収益の柱として存在感を持ち始めております。

そこで、THE SEVENの定量目標を2025年度で売上高100億円に置
きたいと思えます。

さらに、緑山スタジオ・シティに建設しております、
THE SEVEN専用の新スタジオが、
いよいよ12月1日から稼働になります。
その最新映像がございますので、こちらをご覧ください。

(VTR60秒程度 ナレーション：出水アナ)

この新しいスタジオから、THE SEVENが制作する、
新たな作品にご期待ください。



□ 2023年6月末にTBSはU-NEXT株式を追加取得し**20%**を保有、持分法適用関連会社化。

□ 協業シナジーの創出が相互確認できた場合、さらなる連携強化を図るため、TBSは追加出資によりTBSの議決権比率を**30%**まで高めることが可能。

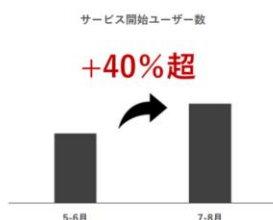
有料会員数 400万人突破

有料会員数は、今年7月のParaviとのサービス統合を受けて単純合算で386万人に達し、以降も「VIVANT」などドラマやバラエティ、また「アジア大会中国・杭州」などイベント型のスポーツコンテンツも好調に推移し、9月30日時点で有料会員数**400万人**を突破。



ユーザー獲得数 大幅増加

サービス開始（無料体験開始）ユーザー数は、Paravi統合前後の2ヵ月間（2023年5月-6月）対比2023年7月-8月）で**40%超**増加。地上波と連動したヒットコンテンツの充実や、地上波でのプロモーションなど、Paraviの統合による各種施策も大きく貢献。



TBS・テレビ東京がランキング上位を寡占

- ✓ ドラマの視聴ランキング上位作品の多くがTBS・テレビ東京に
- ✓ ドラマ上位に占める国内ドラマの割合が大幅に拡大（従来は韓国・アジアドラマが圧倒的）

ドラマ視聴者数ランキング(7月-8月)		制作国	放送局
1	VIVANT	日本	TBS
2	トリリオンゲーム	日本	TBS
3	半沢直樹(2020)	日本	TBS
4	半沢直樹(2013)	日本	TBS
5	ウソ姫	日本	カンテレ
6	18/40〜ふたりなら夢も恋も〜	日本	TBS
7	王様にも嫌な顔	日本	TBS
8	無駄なウソ 誰にも言えない秘密	韓国	-
9	赤い袖先	韓国	-
10	女神降臨	韓国	-
11	AND JUST LIKE THAT... シーズン2 / セックス・アンド・ザ・シティ 新章	アメリカ	-
12	ラストマン-全盲の捜査官-	日本	TBS
13	初恋、ざらり	日本	テレビ東京
14	ブラックペアン	日本	TBS
15	みなと商事コインランドリー2	日本	テレビ東京

出典：(株)USEN-NEXT HOLDINGS 2023年度8月期決算説明資料

続いて、配信事業の「国内有料配信」についてです。

当社が出資を行い、国内勢で最大の有料動画配信プラットフォームである「U-NEXT」は、9月末時点で早くも、有料会員数400万人に達しております。

ドラマの視聴ランキングでは、「VIVANT」など新作はもちろん、「半沢直樹」など過去のヒット作品も多く視聴され、当社のコンテンツがランキングの上位を占めております。

このほか、バラエティ、スポーツコンテンツも好調に推移し、会員獲得に大きく貢献したことは、言うまでもありません。

それに伴って、当社の収益も当初の想定を上回るペースとなっております。

今後も、お互いの強みを活かし、新規の配信コンテンツや、関連プロジェクトでの共同企画制作、新規事業開発の検討などを進めてまいります。

配信事業（TVer）

TBS

TVerの状況

- 月間動画再生数 **3.9億回**を突破
- アプリ累計DL数 **6,000万DL**を達成
- 配信番組数 **700番組以上**（全局統計）
（※レギュラー番組）

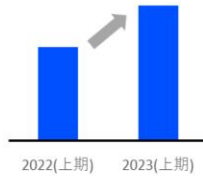
TVerは動画配信プラットフォームとして
着実に成長中



出典：TVer NEWS RELEASE (2023.9.21)

TBS(2023年度上期) TVer収入前年比

+44.8%



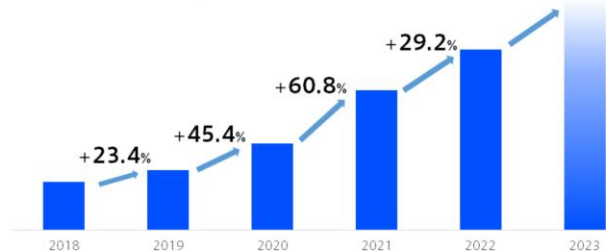
TBS(2023年度上期) 業種別ランキング

1	化粧品・トイレタリー
2	エンターテインメント・趣味
3	外食・サービス
4	酒・飲料
5	食品
6	精密機器・事務機
7	医薬品
8	情報・通信・放送
9	不動産・建設
10	金融



7月期日曜劇場「VIVANT」は、
TVer・TBS FREEでの累計再生回数が
TBSの連続ドラマ史上初の**5,000万回**を突破。
1週間の平均再生回数も**364万回**で
TBSでは歴代トップ。

TBSのTVer収入の推移



33

続いて、配信事業の「TVer」についてです。

TVer全体では、
動画配信プラットフォームとして、
着実に成長しております。

TBSのTVer収入も、
ページ中央のグラフの通り、順調に拡大しております。

今後も、動画広告市場の伸びを上回る成長を目指してまいります。

Vision

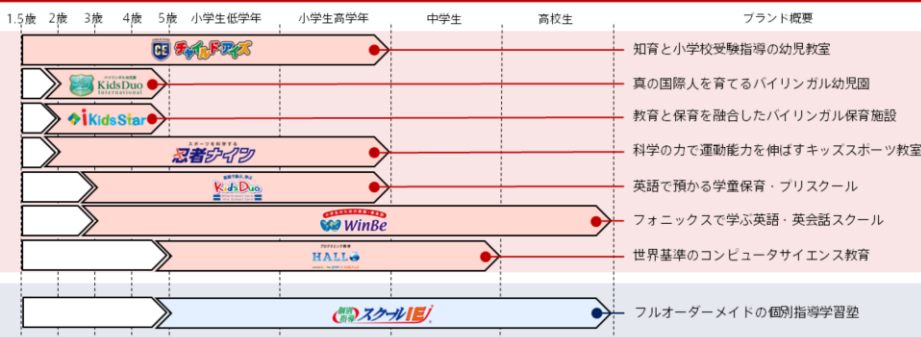
やる気スイッチという一生の財産を、すべての子どもたちへ。

幼児教育 事業

生徒数 55,052 名
教室数 1,112 校 (※1)

個別指導塾 事業

生徒数 77,655 名
教室数 1,203 校 (※2)



(※1)生徒数及び教室数は真富・FC・忍びタビ(ラボ)のすべての合計値を表記 (※2)生徒数及び教室数は真富・FC・台湾のすべての合計値を表記 注1. 生徒数及び教室数は2023年8月末時点の集計値

シナジー創出に向けた取り組みを実施

下記の3分野において、それぞれワーキンググループを組成し、シナジー創出および両社の更なるバリューアップに向けた取り組みを実施

映像教材
コンテンツ開発

体験型教育
コンテンツ開発

メディア
ミックス

学習塾・予備校部門の売上高ランキング



1位
2位
3位
4位
5位

やる気スイッチグループホールディングス
明光ネットワークジャパン
リソー教育
学研ホールディングス
早稲田アカデミー

出典：第41回日経M1サービス調査/2023年10月

続いて「やる気スイッチグループ」についてです。

コンテンツ拡張戦略EDGEの重点領域である
知育・教育事業に本格進出するために、
「やる気スイッチグループ」を
パートナーとして選び、進んでおります。

やる気スイッチグループは、
「一人ひとりが持つ"宝石(才能)"を見つけ、
その無限の可能性を引き出すことで、
世界中の子供たちの夢を、人生を応援すること」
を企業理念としており、
それは、当社の考える知育・教育事業と大変近いものです。

先ほどの、河合からの業績報告の中にもありましたように、
個別指導塾事業を基盤としながら、
多様な幼児教育事業を展開しており、
少子化の中でも力強く成長をしています。

現在は、両社の更なるバリューアップに向けて、
シナジー創出に向けた取り組みを進めております。

TBS アニメ

コンテンツ領域拡大のため、アニメ事業を強化
日曜夕方に「全国ネットアニメ枠」がスタート

放送中

「七つの大罪 黙示録の四騎士」



© 橋本真・講談社 / 「七つの大罪 黙示録の四騎士」製作委員会

2024年放送予定

「戦隊大失格」



© 春場ねき・講談社 / 「戦隊大失格」製作委員会

TBS GAMES

オリジナルIP開発の推進、拡張戦略「EDGE」を
推し進める取り組みの一環として、ゲーム事業に本格参入



伝説のパラエティ番組「風雲! たけし城」公式ゲーム
2023年9月1日より「Roblox」で正式ローンチ



続いて、「アニメとゲーム」についてです。

TBSテレビはアニメ業界の中で後発に位置していますが、
アニメ事業に本格的に注力してまいります。

まず、コンテンツ領域拡大のため、
10月より、日曜夕方に全国ネットのレギュラー枠を増設しました。

そして、キャリア採用などで優秀な人材を集めるとともに、
Seven Arcs、マンガボックス、韓国のStudio Toonといった
グループ各社や関連会社との連携も強めてまいります。

ゲームにつきましては、
「まだ見ぬ最高の"時"をゲームで」をコンセプトに、
7月にTBS GAMESブランドを立ち上げました。

9月には「Roblox (ロブブロックス)」で、
「風雲! たけし城」の公式ゲームをローンチしました。

今後も、
TBSグループの最大の武器であるコンテンツ創造の力を活かして、
モバイル、PC、アーケード、ボードゲームなど、
お客さまに最適な形で、
ゲームコンテンツを届けていきたいと考えております。

共通IDサービス「TBS ID」が開始

TBSグループが提供する
様々なコンテンツやサービスを横断して利用可能

タッチポイント横断の共通IDサービス

TBS ID



TBS TICKETS → TBS ID

第一段として、会員向けチケット販売サービス「TBSチケット」に導入。

「TBSチケット」のアカウントを持つ会員は、2023年10月25日（水）以降、「TBS ID」会員へ移行・統合

36

続いて、「TBS ID」についてです。

「TBS ID」とは、
TBSグループが提供する各種サービスを、
1つのID で利用することができる
会員サービスです。

ユーザーにとっては、
TBSグループのあらゆるタッチポイントから
コンテンツに触れやすくなるだけでなく、
個々人のニーズに合ったコンテンツと出会えるようになり、
利便性が向上するものと考えております。

TBSグループにとっては、
コンテンツグループを目指す上で、
欠かせない会員基盤であると考えており、
まずは、「TBSチケット会員」の統合から開始いたしました。

今後、TBSグループが提供するコンテンツの
あらゆるタッチポイントに
TBS IDを導入していくことを検討しております。



※青字部分は2028年竣工予定の再開発エリア（写真・イラストはイメージです。）

続いて、「赤坂エンタテインメント・シティ」についてです。

赤坂二丁目・六丁目地区開発計画については、
2028年の竣工を目指して、
予定通り進捗しております。

原材料費や工事費の高騰の影響につきましては、
建物仕様の見直しなどでコストの合理化をおこないながら、
進めております。

●今後の主なラインアップ

2023/11/10 現在

	期間	タイトル	備考
映画	2024/3/8公開	マイホームヒーロー	配給：ワーナーブラザーズ
	2024/6/21公開	九十歳、何がめでたい	配給：松竹
	2024年公開	片思い世界	配給：東京テアトル リトルモア
興行	2022/7/8～ロングラン	舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』	TBS赤坂ACTシアター
	2023/10/1～11/12	レイディマクベス	よみうり大手町ホール
	2023/11/15～26	ロスマルスホルム	新国立劇場・小劇場
	2023/11/25～12/10	熊川哲也 K-BALLET TOKYO Winter Tour 2023『くるみ割り人形』	Bunkamuraオーチャードホール
	2023/11/28～12/17	舞台『ジャンヌ・ダルク』	東京建物 Brillia HALL
	2024/2/6～25	舞台『中村仲蔵 ～歌舞伎王国 下剋上異聞～』	東京建物 Brillia HALL
	2024/2/17	スナックJUJU 東京ドーム店	東京ドーム
	2024/4/10～21	マシュー・ボーンの「ロミオ+ジュリエット」	東急シアターオーブ
	2024/4/23～24	井上芳雄 by MYSELF × Greenville Concert2024	東京ガーデンシアター
催事	2023/9/20～12/11	イヴ・サンローラン展 時を超えるスタイル	国立新美術館
	2023/10/3～2024/1/28	キュビズム展 美の革命	国立西洋美術館
	2024/3/16～2024/6/16	大哺乳類展3	国立科学博物館

続いて、今後の映画・興行・催事のラインナップです。

2年目に入っております
舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」は、
引き続き券売も好調で、
リピーターの方にも多数お越しいただいております。

そのほか、
多くのイベントを予定しております。

PLAZASTYLE

「Nice to meet me!」プロジェクトは、現代を生きるあらゆる世代の女性たちへ
“どんな瞬間も自分らしく過ごしてもらいたい”というメッセージを込めて、
その時々のごところからに寄り添うアイデアを共に考え、提案しています。

第二弾アイテムとして、PLAZAオリジナルのサニタリーショーツ

「SaniBuddy（サニバディ）」全3種を開発。

「これで、いっか。」と選択するしかなかったサニタリーショーツに、
「これ“が”、いい！」という選択肢を与えたい！というプロジェクトメンバーの
想いのもと、開発されたショーツです。



あなたの街にPLAZAがやってくる！

PLAZA
LUMINE
YURAKUCHO
OPEN
2023.9.7 THU.

PLAZA
HANEDA Airport
Terminal2
RENEWAL
OPEN
2023.10.26 THU.

PLAZA
UMEDA HEP FIVE
RENEWAL
OPEN
2023.10.27 FRI.

PLAZA
IKEBUKURO
Sunshine City
alpha
OPEN
2023.11.17 THU.

PLAZA
NEWSSTAND

2023.10.6 FRI. OPEN at AKASAKA



PLAZAの“BEST”と“ONLY”であふれる新店舗

「PLAZA NEWSSTAND 赤坂店」が誕生。

店内には、選びぬかれたPLAZAの“the BEST”なアイテムが並び、
期間・店舗限定の“the ONLY”なPOP UPイベントを定期開催します。

最後に

スタイリングライフグループの店舗

「PLAZA」についてです。

客数の増加で売り上げが大変好調に推移する中、
さらに魅力ある商品展開や
プロモーションを強化しております。

また、出店計画も積極的に進んでおり、
有楽町や池袋サンシャインシティなど、
売上が期待できるエリアの出店が続きます。

そして、ついに赤坂Bizタワー1Fにもオープンいたしました。
約25坪と日本で最も小さい「PLAZA」ですが、
連日賑わっております。

私からの説明は以上です。

2023年度 第2四半期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

経営計画の進捗

今後の重点施策

参考資料

※原稿なし

連結貸借対照表

TBS

(単位：百万円)

	2023年 3月末	2023年 9月末	比較		2023年 3月末	2023年 9月末	比較
流動 資産	209,058	156,819	△52,239	流動 負債	104,059	102,687	△1,372
				固定 負債	167,621	220,066	+52,444
				負債 合計	271,681	322,754	+51,072
固定 資産	858,807	1,040,654	+181,847	純資産 合計	796,184	874,719	+78,535
				自己 資本	780,667	863,271	+82,604
				非支配 株主持分	15,517	11,447	△4,069
資産 合計	1,067,865	1,197,473	+129,608	負債 純資産 合計	1,067,865	1,197,473	+129,608

四半期末有利子負債残高： 239億円 （前期末比 +39億円）

※リース債務は除く

※原稿なし

連結キャッシュフロー

TBS

(単位: 百万円)

	2022年度 上期 (4-9月)	2023年度 上期 (4-9月)	前年差
営業活動による キャッシュ・フロー	8,670	12,577	+3,907
投資活動による キャッシュ・フロー	△15,988	△50,264	△34,275
財務活動による キャッシュ・フロー	△9,510	△15,917	△6,407
現金及び現金同等物の 増減額	△16,654	△53,476	△36,821
現金及び現金同等物の 期首残高	98,707	97,589	△1,118
現金及び現金同等物の 期末残高	82,052	44,112	△37,940

※原稿なし

新ファミリーコア視聴率（4～49歳）

TBS

(※ [] 内は前年同期差 単位：%)

	全 日	ゴールデン	プライム	ノンプライム
TBS	③1.5[0.0]	②3.0 [0.0]	②2.9 [0.0]	③1.1 [0.0]
日本テレビ	①2.6	①4.6	①4.3	①2.1
テレビ朝日	④1.1	④2.1	④2.2	④0.8
テレビ東京	⑥0.5	⑤1.4	⑤1.2	⑥0.3
フジテレビ	②1.7	②3.0	②2.9	②1.3
NHK	⑤0.7	⑤1.4	⑤1.2	⑤0.5
PUT	9.1[△0.7]	17.1 [△1.2]	16.1[△1.3]	7.1 [△0.6]

(2023/4/3 ～ 2023/10/1 : 週ベース)

(ビデオリサーチ調べ：関東地区)

※原稿なし

個人全体視聴率 (ALL)

TBS

(※ [] 内は前年同期差 単位: %)

	全 日	ゴールデン	プライム	ノンプライム
TBS	④2.6 [△0.2]	④4.0 [△0.1]	④4.0 [△0.1]	④2.2 [△0.2]
日本テレビ	①3.4	①5.5	①5.1	①2.9
テレビ朝日	①3.4	②5.0	①5.1	①2.9
テレビ東京	⑥1.2	⑥3.0	⑥2.6	⑥0.7
フジテレビ	⑤2.3	⑤3.6	⑤3.6	⑤1.9
NHK	③2.9	③4.9	③4.2	③2.5
PUT	18.8 [△0.9]	30.9 [△1.5]	28.9 [△1.5]	15.9 [△0.8]

(2023/4/3 ~ 2023/10/1 : 週ベース)

(ビデオリサーチ調べ: 関東地区)

※原稿なし

TBSテレビ タイム・スポット収入 対前年比

TBS

(単位：百万円)

	タイム			スポット				備 考
	2023年度	前年差	増減率	2023年度	前年差	増減率	地区投下 (推計)	
4月	7,229	+193	+2.7%	7,201	△179	△2.4%	△5.0%	タイムは、レギュラーセールス好調。
5月	6,380	△179	△2.7%	6,488	△711	△9.9%	△8.3%	
6月	6,055	+86	+1.4%	5,951	△976	△14.1%	△9.5%	スポットは、市況が落ち込む中、好調だった昨年の反動で増収。
7月	6,388	△2,153	△25.2%	6,270	△326	△5.0%	△11.9%	タイムは、世界陸上オレゴン大会（2022年）の反動で増収。
8月	7,563	+1,609	+27.0%	5,004	△664	△11.7%	△8.9%	タイムは、世界陸上ブダペスト大会（2023年）で増収。
9月	6,941	+893	+14.8%	5,289	△701	△11.7%	△8.4%	タイムは、アジア大会中国・杭州（2023年9月分）で増収。
10月								
11月								
12月								
1月								
2月								
3月								
1 Q	19,665	+99	+0.5%	19,641	△1,867	△8.7%	△7.5%	
2 Q	20,893	+349	+1.7%	16,565	△1,691	△9.3%	△9.8%	
3 Q								
4 Q								
通期	40,559	+449	+1.1%	36,206	△3,559	△9.0%	△8.6%	

●スポット5局シェア（推計） 四半期推移

2019年度 19.3%（累計）				2020年度 19.7%（累計）				2021年度 20.1%（累計）				2022年度 20.6%（累計）				2023年度 20.8%（累計）			
1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
20.2	19.2	19.0	18.9	20.5	20.2	19.4	19.3	20.4	20.3	19.7	20.0	21.2	20.6	20.9	19.6	20.9	20.6		

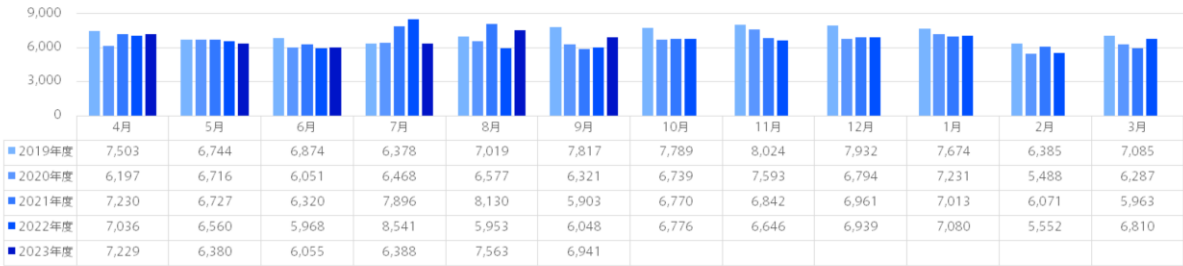
※原稿なし

TBSテレビ タイム・スポット収入 経年推移

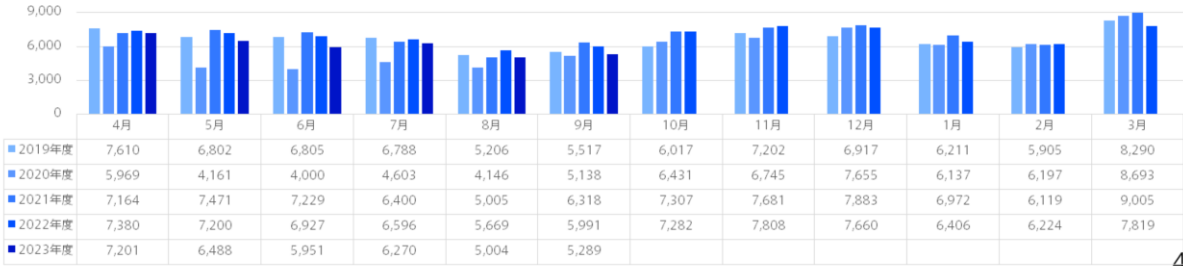
TBS

●タイム収入

(単位：百万円)



●スポット収入



※原稿なし

(単位: %)

	2023年度 上期 (4-9月)	増減率	シェア	前年同期	増減率	シェア
1	情報・通信・放送	△8.6	16.9	情報・通信・放送	△7.9	16.9
2	酒・飲料	△6.8	11.9	酒・飲料	△6.8	11.6
3	食品	△7.5	8.5	外食・サービス	+44.2	10.1
4	外食・サービス	△26.4	8.1	食品	△2.8	8.4
5	医薬品	△3.9	7.1	医薬品	△1.6	6.8
6	交通・レジャー	+23.9	6.2	金融	+5.6	5.1
7	化粧品・トイレットリー	+12.5	5.7	化粧品・トイレットリー	△34.2	4.6
8	金融	△9.0	5.1	交通・レジャー	+18.4	4.6
9	エンタテインメント・趣味	+10.8	4.9	精密機器・事務機器	+20.2	4.4
10	不動産・建設	△15.3	4.1	不動産・建設	+4.3	4.4

※ 順位は金額順

※原稿なし

メディア・コンテンツ/ 不動産・その他 (1社)

(株) TBSテレビ

メディア・コンテンツ (13社)

(株) TBSラジオ

(株) BS-TBS

(株) CS-TBS

(株) TBSスパークル

(株) TBSグロウディア

(株) TBSアクト

(株) Seven Arcs

TCエンタテインメント (株)

TBS International, Inc.

(株) TBSメディア総合研究所

(株) 日音

(株) マンガボックス

(株) THE SEVEN

ライフスタイル (7社)

(株) スタイルライフ・ホールディングス

(株) CPコスメティクス

(株) ライトアップショッピングクラブ

(株) やる気スイッチグループホールディングス

(株) やる気スイッチグループ

(株) やる気スイッチキャリア

(株) YPスイッチ

不動産・その他 (5社)

赤坂熱供給 (株)

(株) TBS企画

(株) TBSサンワーク

(株) TBSヘクサ

(株) 緑山スタジオ・シティ

持分法適用 (6社)

(株) リトブラ

(株) WOWOW

碧芯珞(上海)化粧品有限公司 / BCL China Inc.

(株) Amazing Sports Lab Japan

(株) YGC

(株) U-NEXT

※原稿なし